

MUSASHINO Vol. 91 for TOMORROW



武蔵野音楽学園 創立八十年



ONS | 巻頭

夢の途中 山下泰裕

特集 創立80周年記念
変革しつづける
武蔵野音楽学園の
80年を語る (第2部)

October 2009
vol.91

夢の途中

柔道の精神で人づくり——和の心

山下泰裕 ●柔道家・東海大学体育学部長●



山下泰裕 Yasubiro Yamashita

1957年熊本県生まれ。東海大学大学院体育学研究科修了。全日本選手権9連覇、ロサンゼルス五輪無差別級金メダル、203連勝を達成し、'84年に国民栄誉賞受賞。'85年現役引退。アトランタ、シドニー五輪の日本代表監督、国際柔道連盟教育コーチング理事を歴任。現在、NPO法人柔道教育ソリダリティー理事長、神奈川県体育協会会長、東海大学体育学部長。著書に「武士道とともに生きる」(奥田碩氏との共著)などがある。

柔道選手として、ロサンゼルス五輪柔道無差別級金メダル。203連勝のまま引退。国民栄誉賞など数々の偉業を成し遂げた山下泰裕さん。過去よりも未来を語りたい、柔道で培った精神を日常に活かしてこそ柔道家。柔道家であり続け、人生の金メダルを目指して今も夢の途中だ、とおっしゃいます。自らを律し続けるその姿勢には、音楽の修練や武蔵野音楽大学の教育理念に相通ずるものがあるのではないのでしょうか。

(2009.7.21インタビュー、文責編集部)

そもそも柔道とは 为什么呢

私の好きな言葉に「伝統とは形を継承することではなく、その精神、魂を継承することである」というものがあります。柔道創始者の嘉納治五郎先生は、柔道の理念として「精力善用、自他共栄（心身の力を最大限に有効に活かし、人間と社会の進歩と発展に貢献すること）」を伝え続けました。

ご存知のように嘉納先生は、明治期に日本古来の柔術の各流派を一本化し、講道館柔道を興され、柔道を近代スポーツとして確立された方です。

2012年度から中学校保健体育の武道必修が実施されます。柔道、剣道などの武道を通じて日本の伝統と文化を体験し、その中から「日本人の心」を学ぶのが目的と言って良いでしょう。

武道は自分の感情を制御し、相手を尊敬することを重視します。柔道で闘う相手は、敵ではなく、自分を高めてくれる師とも言えます。相手がいてこそ自分を磨き高めることができます。試合中は熱くなくても、勝負がついた瞬間にすっと冷静になって礼をする。相手に対して感謝の気持ち、あるいは尊敬の気持ちを示します。それこそが日本人の心「和の心」と言えます。「道」という字がつくように、柔道はただ競技することだけではないのです。技とともに磨いた心を人生、日常生活に活かすことが大切。和の心を持って人に接し、困った人を助けることで柔道家に育って行くのです。

ですから武道必修で学校で教えるのは、単に競技としての柔道ではありません。柔道という切り口で、お互いを尊敬する心、和の心、日本の伝統文化、体を動かすことの楽しさ、あるいはころんだときの身の守り方を学び、生涯スポーツへ繋げようというものです。私は柔道の本質はその精神、魂の継承と考えていますから、武道必修には大いに喜んでます。同様な趣旨で現在神奈川県体育協会会長を務め、スポーツを通して

いじめ防止などにも取り組んでいますが、柔道の精神で人づくりがしたいのです。

出会いの大切さ

私が柔道に出会ったのは小学生の時。1年生で6年生程の体格を持っていた私は、乱暴で皆の嫌われ者。このままでは大変だ、柔道は体だけではなく精神を高めるはずだ、と親が始めさせたのでした。

帯を締め、柔道衣を着れば、どんなに闘っても全て許される。私は柔道にのめり込んで行きました。

私が大切にしている1枚の表彰状があります。ロス五輪から帰国後、故郷の小学校時代の友達がくれたものです。「あなたは乱暴で我々に多大な迷惑をかけた。しかし、今回、不慮の怪我にもかかわらず見事に金メダルに輝いた。小学校時代の悪行を精算して余りあり、同級生の誇りとして、永遠の友情を約束する」というものです。

こんな最高の宝をいただけたのも、柔道の精神のお陰だと思えます。現役時代、常に勝つことを考え闘い続けました。と同時に柔道の精神があったからこそ、今の私があると思えます。

様々なことを柔道の師、人生の師に学んできました。私自身、過去には柔道の指導者でありました。しかしどんなジャンルでも、指導者は単に技術や競技の師ではないと思えます。あらゆる指導の元は人間教育です。指導者は教え子を磨く前に自分自身を磨かなければならないと考えています。自分自身の人生に対する姿勢、人間として高める生き方を生徒は感じるのだと思えます。私はこれまで多くの出会いに恵まれ、いまでも人との出会いを大切にしています。



自分の心をゆり動かされるような出会いが多数あり、それが力になっています。人は自分のレベルにふさわしい人に出会う、とも言われますが、よき出会いのためにも自分を磨くことが必要です。

原点に戻りたい 柔道ルネッサンス

柔道は強くなればなるほど優しくなれます。できれば、私の体の中から優しさがしみ溢れる、そういうふうに見られる人間になりたい、と考えています。

しかし残念ながら、柔道が常にそういうものであるかという、疑問もあります。一時期、柔道の大会に会場を貸すと汚すし片付けないし、会場に貸したくない、とまで言われました。柔道の精神と全く逆のことが競技の外で行われていたのです。また勝つことばかりにこだわってしまいました。

柔道の根本は、先にも言いましたように、人づくり、人間教育です。もう一度原点に戻って、柔道が中心になった青少年の育成、人づくりを

行っていくべきではないか。こんな思いで2001年秋から始まったのが、柔道ルネッサンス活動です。子どもたちが柔道衣を肩に担いで道場に来る。そんな姿に憧れる。柔道をやっている人は何か違う。素晴らしい人たちだ。それが柔道ルネッサンスの目的です。もともと柔道が持っていたもの、それを原点に広めて行きたいと思えます。

日本で柔道ルネッサンス活動を成功させ、世界の国々に広げたい。私は、柔道とはこういうものだ、という決めつけは嫌い。柔道は一つではないと思えます。それぞれの国にそれぞれの柔道があって良いと思えます。世界には様々な格闘技があり、その代表のひとつとして柔道がオリンピック種目になっているのではないのでしょうか。ですから、それぞれの柔道を認めたいと思えます。お互いを認め合うことこそ「和の心」です。自分も大切だが相手も大切。それを認め合うことこそ、世界の調和につながる、世界の平和につながります。

柔道は様々であっていい。しかし、変えてはいけないものがあります。まず「一本」を目指すこと。判定ではなく「一本」は完全な勝利です。それを目指して頑張ることで、自分も見人も



感動するのです。次に「柔道は人間教育であること」。さらに「礼」のように競技の言葉が日本語であること。それがないと柔道の精神が伝わっていきません。例えば英語で進められるとすれば、それはもう柔道ではなくなってしまいます。

世界の国々で柔道を通じた人づくり、人間教育を進めていきたいと思っています。選手として、指導者として柔道にたずさわって、一つの道を歩いてきましたが、同じ道で、ようやく足を一歩踏み込めたところです。

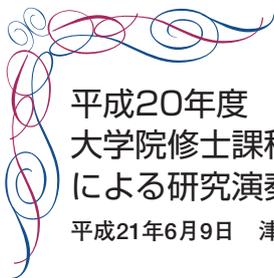
NPO法人柔道教育 ソリダリティー

柔道ルネッサンスとは別に、「NPO法人柔道教育ソリダリティー」を立ち上げています。今や柔道はオリンピックスポーツとして世界中の人々に愛好されています。国際柔道連盟には199の国や地域が加盟していますが、その多くは貧しい国々です。そういう国を少しでも応援したい。現在の国際情勢を見ると、紛争やテロ、環境の悪化、南北格差の拡大など問題が山積みです。そんな状況ですか

ら、一部の柔道途上国では、指導者、柔道衣、畳、教材が全く不足しています。そこで日本の古くなった柔道衣や畳の提供、柔道文献の翻訳、教材の無料配布、海外への指導者の派遣などを行っています。

ここでも大切なことは、柔道の本質をいかに伝え、広めていくか、ということです。世界をまわっているうちに、日本人、そして柔道が持っている「和の心」や「調和」といったものをもっと広めることで、争いごととも少なくなっていくのではないかと気づきました。自然を大切に、人間として清く生きる、正直に生きる、こういった考えが世界に広がって欲しいのです。

現実を見れば、日本は世界からはまだまだ遠い国です。日本に対する興味、関心、理解も決して高くありません。しかし柔道をやっている人は、柔道を通して日本に関心を持っていますから、まずそこから始めようということなんです。スポーツというのは言葉が解らなくてもできます。すると、そこが異文化交流の場にもなって、その中で徐々にお互いの違いを理解していくことができるでしょう。それすなわち「和の心」だと私は思っているのです。



平成20年度 大学院修士課程修了生 による研究演奏会

平成21年6月9日 津田ホール



佐藤 純(フルート)



江洲里枝(ソプラノ)



石黒聖葉(ピアノ)



柄本舞衣子(ハープ)



青木寛子(ソプラノ)



中西明日香(ピアノ)



▲ 武蔵野音楽大学江古田キャンパス

ひとつのことに かける人生

ひとつのことに打ち込めることは素晴らしい。いま、無目的に生きる若者が多い中、打ち込めるものを見出した人たちは幸せだと思います。小さな箱の中に自分を閉じ込めず、大きな夢を持って存分にやって欲しい。持てる力の全てを出し切ってください。私も柔道と出会い、一筋に打ち込んできた。80%や90%ではいけない。自分を追い込み、限界までやった時に初めて限界は広がります。自分の力を出し切

った時に、もう一滴も力が残っていないと思う時に、新しいものが生まれる。私も練習をしていて、もう意識がなくなる程に力を出し切った時、無意識に新しい技が出ることがあります。例えば音楽に打ち込み続ければ、そのひたむきな姿、その姿勢、その経験がその後の人生の道しるべになると思います。

'84年、国民栄誉賞をいただき、翌年引退してから、自分のこれからの役割はスポーツを通じて世界平和、友好親善に力を尽くすこと、と自覚しました。

柔道ルネッサンスも、NPO法人柔

道教育ソリダリティーも、そのための活動です。

結局柔道と言っても、現役を引退してからのほうが人生は長い。もっとも大切なのは柔道で培った心。つまり形ではなく精神を継承していくことです。

チャンピオンになっただけでは半人前。私が本当の柔道家であるかどうかは、これから問われるのではないかと思います。まだまだ私の夢は続いている。大好きな柔道を世界に広げるといふ夢は、一生続けられる。私は一生、夢の途中でいられる。これからが「人生の金メダル」への道。まだまだ道半ばです。



音・楽・余・話・ 好対照：その2「どちらが正しいか」

本誌、86号でモーツァルトとベートーヴェンの対照的な個性について述べた。今回はピアノの技巧に関する、ふたつの異なる見解について。

ウェーバーは言う。「ピアニストが機械的に指を動かす時、その愚かな手は作曲家たちの心を乱し、創造性を妨害する。そのために、作曲家たちはスケールやアルペジオをむやみに多く使うことになる」。ストラヴィンスキーは、ほとんど逆のことを言う。「ピアノを弾く作曲家の指は、彼の心に沿う動きを

し、頭では気づかないことに気づかせてくれる」。

ウェーバーの時代、演奏家たちが妙技を誇示する流れの中、多くの技巧的なパッセージや練習曲が生まれた。一方、20世紀初頭、ストラヴィンスキーの時代には、音楽は正確、簡潔であることが重視され、感情表現を無用とする方向に向かっていった。

さて、ウェーバーとストラヴィンスキーの見解、どちらが正しいか。ここで、ある時、私がネイガウスに「ギレリスと

リヒテルの、どちらが、より優れていますか？」とたずねた時の、彼の返答が思い起こされる。ネイガウスは「どちらも、より優れている」と言ったのである。けだし名答。ウェーバーとストラヴィンスキー、この偉大な二人の作曲家の対照的な意見も、どちらも「より正しい」と、私は思う。

(訳：重松万里子)

コンスタンティン・ガネフ
(本学客員教授)

特集 創立80周年記念

和をもって創立され、美をもって育まれる

変革しつづける 第2部 武蔵野音楽学園の80年を語る



武蔵野音楽学園 創立八十周年

前号では1929年の創立から'61年のベートーヴェンホール竣工まで、創立者 福井直秋先生の時代をたどってまいりました。今号では入間キャンパス開設から現在まで、そして明日の武蔵野へ続く途を展望します。



▲ ヴィオラ・ダモーレを手にする福井直弘前学長

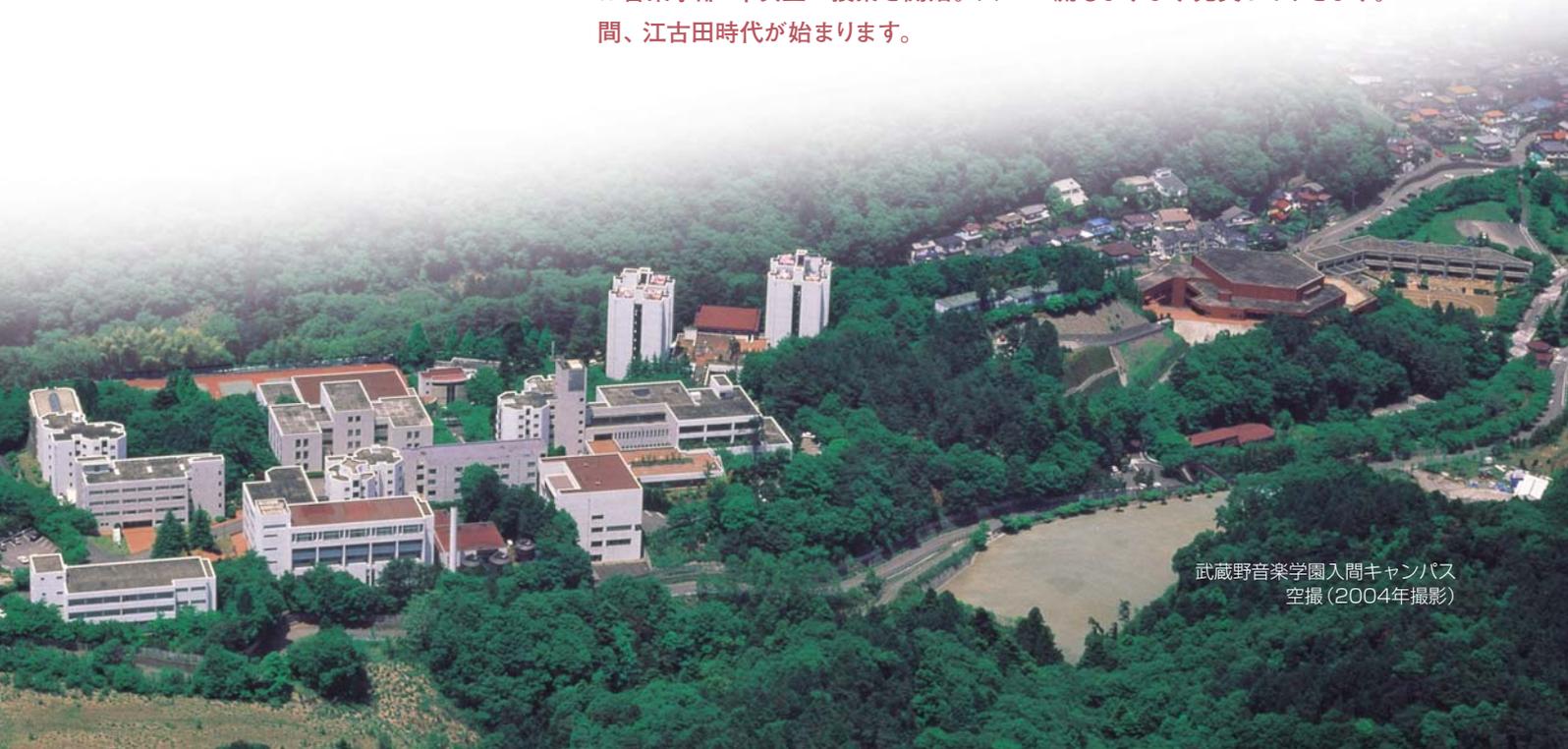
入間キャンパス開設から各施設の充実 〔1962(S37)年～1980(S55)年〕

'62年、日本の音楽教育を牽引してきた福井直秋学長が辞任され、福井直弘先生が学長に就任します。同時にそれは、武蔵野音楽大学の新たな発展の幕開けでした。

'70年には江古田キャンパスの施設づくりがほぼ完了しますが、'60年代初めには、武蔵野の次期発展の布石として、すでに入間キャンパス建設計画が検討されていました。'73年、入間に武蔵野高等学校(現在の武蔵野音楽大学附属高等学校)が開校し、'76年には音楽学部1年次生の授業を開始。入間、江古田時代が始まります。

この時代、新天地の開発のみではなく、'64年、附属江古田音楽教室の開設、'67年、楽器博物館の開館、前述の高等学校開校など、幼児期から大学にいたる一貫教育体制の確立と音楽教育の充実に全力を傾けたのでした。

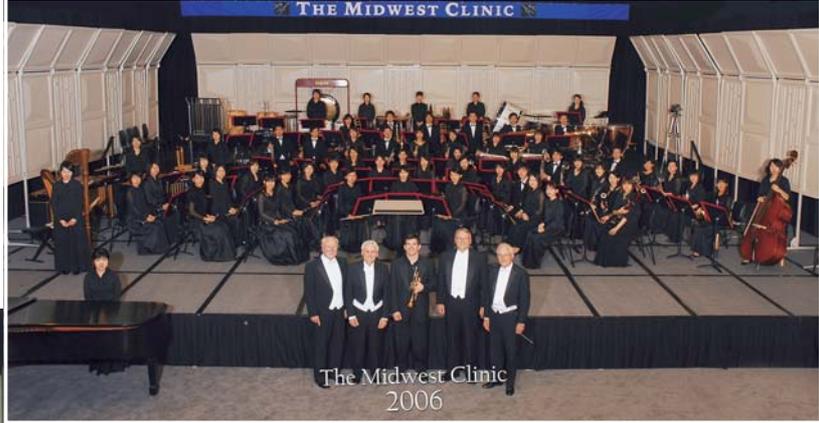
また、'77年にはドイツ・ボン市の「ベートーヴェン没後150年」記念行事に招かれ、管弦楽団の第1回「欧州演奏旅行」を実施。'83年にはウィンドアンサンブルの「アメリカ合衆国演奏旅行」も開始され、伝統的な海外との交流もますます充実してゆきます。



武蔵野音楽学園入間キャンパス
空撮(2004年撮影)



▲武蔵野音楽大学楽器博物館 (江古田)



▲武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル米国演奏旅行 (2006年、第60回ミッドウェスト・クリニック)



▲武蔵野音楽大学管弦楽団 第1回欧州演奏旅行 (1977年、ニュルンベルク・マイスタージンガー・ハレ)



丸山 徹薫先生

昭和31年武蔵野音楽大学卒業 (ピアノ専攻)、昭和32年同専攻科修了



川崎 隆先生

昭和34年武蔵野音楽大学卒業 (ピアノ専攻)、昭和35年同専攻科修了



池田 温先生

昭和36年国立音楽大学卒業 (声楽科)

丸山 雄大な自然に抱かれ緑あふれるキャンパスの実現を目指して、'63年に3万坪の土地を取得したのが第一歩。最終的に現在の15万坪に及ぶ広大なキャンパスになります。開発工事の頃はあまりに広く、いったいどういうレイアウトになるのか、想像もできない状況でした。次々と校舎が建てられ、'79年にバウザールが竣工しています。

川 「武蔵野音楽大学楽器博物館」の前身である楽器陳列室が設けられたのが'59年。現在では約5,300点もの所蔵品があり、江古田、入間、そしてパルナソス多摩、それぞれの展示室で展示されていますが、東洋一の規模です。

丸山 '53年に福井直弘先生がヨーロッパ視察の折、持ち帰られたヴィオラ・ダモーレが資料の第1号ですね。以来、着々と収集が続けられました。名器と呼ばれるもの、時代考証のために重要な楽器などが沢山ありますが、見て触れて、実際に音が出せる物が

多いのも特長です。クララ・シューマンが使っていたピアノのように、所蔵する楽器で演奏会を開いたこともあります。一般公開され、開かれた大学としての役割も果たし、「博物館相当施設」として東京都教育委員会の指定も受けています。

池田 海外演奏旅行では、この9月に管弦楽団がハンガリーへ行きます。'77年の第1回海外演奏旅行から数えて13回目になります。今年、日本とハンガリーとが国交回復50周年にあたるのを記念して、ハンガリー大使とリスト音楽院から交換演奏の提案がありました。リスト音楽院の管弦楽団は、11月に来日してコンサートを開くこととなります。先日調べてみましたら、実は武蔵野音楽大学には、何とハンガリーから半世紀にわたって、延べ約100名もの客員教授がお見えになっていたのです。こういう実績、海外との交流の歴史があってこそ、海外演奏旅行も継続して実現できるのです。

音楽学部7学科、博士課程… 次代への改革は続く 〔1981(S56)年～2009(H21)年〕



▲第15回インターナショナル
サマースクール・イン・トウキョウの教授陣

江古田、入間と、たて続けに施設の充実を図る武蔵野。いずれも順調にすべり出すと共に、教育内容の強化、改革、学びやすい環境づくりが強力に進められてきました。

’81年、福井直弘学長が逝去、福井直敬学長が就任。さらなる発展の幕が開かれます。

その一つに武蔵野独自の奨学金制度があります。’66年にはすでに「福井直秋記念奨学金」制度が設けられ、これが充実して、これまでに延べ約3,600名の学生・生徒が恩恵を受けています。

’93年には社会に開かれた大学の施設として「パルナソス多摩」を開設。そして江古田では、’95年に「インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ」が始まります。今年が15回目が開催されました。夏休みの期間を利用して、武蔵野の関係者だけではなく、広くプロの音楽家や教師を目指す受講生に、世界の一流教授による指導を受けられるようにしたもので、東京で行われることもあって、社会的な貢献という意味でも、つとに有名になっています。

さらに2000年代に入って、矢継ぎ早に音楽の総合大学として組織の改革が続いています。’04年に博士後期課程が設置され、「博士(音楽)」または「博士(音楽学)」の学位が取得できる高度な教育研究体制が整いました。また武蔵野には伝統ある音楽学部5学科(器楽学科、声楽学科、作曲学科、音楽学学科、音楽教育学科)がありますが、さらに現代の社会的ニーズに応えるべく、近年、ヴィルトゥオーソ学科、音楽環境運営学科を開設しました。

これら武蔵野の歴史・実績・運営等

が、’09年には日本高等教育評価機構の認証評価の認定という形で実ります。本学は昨年度、この評価機関での受審大学中、最も多い22項目にわたる「優れた点」を評価されたのです。



▲オーケストラとのリハーサル ヴィルトゥオーソ学科



▲音楽環境運営学科授業風景

川 手前味噌ですが、音大の中で独自の奨学金制度が最も充実しているのは武蔵野である、と自負しています。この奨学金には第1種から第4種までの種類がありますが、全て返還義務がありません。加えて今年から始まった新1年生に対する「学修奨励金」は入学試験の成績が優秀な学生約30名に給付する制度で、これら全てを数えると、年間100名以上の学生・生徒に給付されています。

丸山 これらの奨学金は創立者福井直秋先生の遺志を継ぎ、福井先生並びに教職員、同窓生、ご父兄などからの寄附金を基金として運営されています。

次に’93年に開設されたパルナソス多摩なんですが、大学を出てからさらに勉強を深めたいという人のための特修科、



佐伯真弥子先生

昭和37年武蔵野音楽大学卒業(声楽専攻)、昭和38年同専攻科修了



熊倉功二先生

昭和42年上智大学卒業(理工学部物理学科)、昭和44年同専攻 修士課程修了



▲パルナソス多摩（1993年撮影）

子どもたちの音楽教室、あるいは楽器博物館の展示室、そして地域の方々に大いに利用されているシューベルトホールなどがあります。

佐伯 パルナソス多摩の音楽教室の開設から8年間ほど教えました。今ではシューベルトホールで女声合唱を行っています。これには卒業生も含む、地域の皆さんが参加して盛況です。この施設は武蔵野音楽大学が社会に開いた窓と言っても良いでしょう。

池田 社会に開かれ、いや世界に開かれている、と言って良いのが今年15回目を開催した「インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ」です。世界のトップクラスの先生が指導にあたる非常にハイレベルのサマースクールで、例えばチャイコフスキーコンクールで優勝した佐藤美枝子さんなども、かつて受講されております。文化庁から昨年、一昨年と芸術団体人材育成支援事業として助成金を受けていることから、同スクールへの高い評価が伺われます。

丸山 武蔵野は'49年に器楽・声楽・作曲の3学科を持つ大学として誕生、'65年には音楽学学科および音楽教育学科が加わって、以来伝統ある音楽学部5学科を中心に発展してきました。そして'04年博士後期課程、'06年ヴィルトゥオーソ学科、'07年音楽環境運営学科、と

矢継ぎ早の拡充が進みます。

川 ヴィルトゥオーソ学科は、プロの演奏家を目指すはっきりした目的を持った学生が集まります。今年、完成年度を迎えましたが、4年間を振り返ってみますと、学生たちは非常に良く努力し成果を上げました。しかし4年間はあっという間、まだ勉強したいという希望も多く、来年度からは大学院修士課程にヴィルトゥオーソコースを開設します。

池田 これまでの音楽教育は、演奏家、作曲家、学者、そして音楽教育者を育ててきました。しかし文化審議会の答申にもあるように、文化の振興を考えると、その人々を活躍させ支える、アートマネジメントを担当する人材の育成が必要ではないかという気運

が高まり、そこで誕生したのが音楽環境運営学科です。

熊倉 二つの新しい学科、また博士後期課程の開設は、武蔵野が音楽大学として総合的な体制へと変わってきたということだと思います。総合的である、ということがお互いにうまく機能して、ますます充実しているのが現状だと思います。総合化が時代の要請かどうか、あと10年くらいしないと分かりませんが、学長先生に大きな指導力があり、武蔵野がそれだけの実力を蓄えてきた、ということですね。

丸山 矢継ぎ早の改革、拡充が図られているように見えますが、実は大変長い時間を掛けて慎重に計画されてきたことなのです。

佐伯 声楽というのは、体が楽器といわれるだけあって、18歳で将来性を見るのはとても難しい。声も成熟する修士課程にヴィルトゥオーソコースができたのは、大変素晴らしいと思います。音楽環境運営学科のほうでいいますと、春に開催されたオペラ「コジ・ファン・トゥッテ」の上演にも同学科の学生が裏方に参加し、相乗効果の高まりが感じられます。

熊倉 実は、音楽の総合大学という言葉は、日本高等教育評価機構の先生方が、武蔵野を評価した評価報告書の中で述べられた言葉なのです。とても嬉しかった。もう一度評価を受けても同じ



▲創立80周年記念オペラ公演「コジ・ファン・トゥッテ」(2009年)

結果になると思います。それは武蔵野では組織に一本芯が通っていて、協力体制が整っている。組織に底力があるということだと思います。

川 いままでお話しいただいたような80年の歩み、そして将来の武蔵野を考えると、基本中の基本になっているのが創立者福井直秋先生の人間を育てる、という考え方だと思います。音楽のみならず、人間教育だということです。

池田 そうです。その考え方はぶれることがありません。社会に評価され、沢山の入学希望者が集まる。そのこと自体が評価ですし、武蔵野の証ですね。

熊倉 三代の学長先生が抱き続けられたモットーに、大学として良い環境をつくる、熱心な良い先生を招致する、それを慕って良い学生が集まる。この3つがずっと変わらずにある。時代、状況で変わるものはあるかも知れないが、何時もてらうことなく真面目に教育・運営に取り組む。この基本は変わらないと思

ます。

佐伯 どんな演奏家も繰り返し勉強することが大切ですが、我々教育現場にいる者も、常に切磋琢磨しなければならない。この創立80周年にそれをもう一度肝に銘じ、100周年に向かわなければならないと思います。

丸山 今、我々大学人の集まりでテーマになるのは、ガバナンス、そしてコンプライアンスですね。それに教育職員と事務職員の協働。そして同窓生との固い絆。武蔵野にはそれが揃っています。その上で良い教育環境を整え、いかに学生・生徒を厳しく指導し、しかし本当に温かく深く愛して良い人材を育成するか。困難な課題であると共に、喜びにつながる不変のテーマです。

駆け足で、武蔵野音楽学園の80年を追ってまいりました。そこにあるのはどの時代においても、

常に音楽教育の本質を求めて、先駆的に時代を切り開いていこうというチャレンジ精神です。創立80周年から100年へ、これまでと同じように、武蔵野の基準が次代の音楽教育のスタンダードになるという姿勢が貫かれることでしょう。

「和」をもって建学され、「音楽芸術の研鑽と人格の錬磨は、互いに相高め合うもの」という信念のもとに、音楽の「美」を求めて育まれる武蔵野音楽学園のスピリット。その精神は変わることなく引き継がれて行きます。

(創立80周年座談会第2部は8月3日に行われました)



▲福井直敬学長

音楽の万華鏡 9

王侯貴族ではなく、一般の人が入場料を払って自由に聴くことのできる公開演奏会は、交響曲や協奏曲といった曲種の成立とも相まって、そして啓蒙主義の背景の下で、18世紀のうちに大きく発展していった。ロンドンやパリといった大都会をもつイギリスやフランスと、中小の領邦から成り立つドイツでは、その発展の仕方に違いはあったが、ヘンデルやテレマンといった後期バロックの大作作曲家たちも、コンサートの発展に大きな役割を果たした。中・北部ドイツのプロテスタント諸都市では、いわば音楽家の同業組合であるコレギウム・ムジクムが組織され、公開演奏会の基礎が築かれた。例えばライブツィヒでは、18世紀初頭にテレマンが再組織したコレギウム・ムジクムが市民の音楽活動の中心となり、1729年にはJ.S.バッハがその指揮者

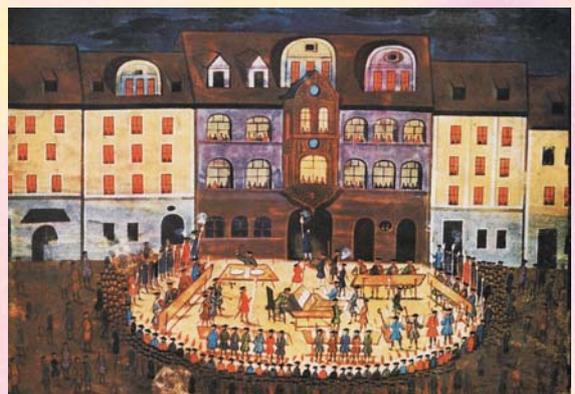
イエーナのコレギウム・ムジクム

の地位に就任している。

羊皮紙に描かれた1740年頃のこの水彩画には、ライブツィヒの南西に位置する古くからの大学町イエーナのコレギウム・ムジクムがヨハネ街で行なった夕べの音楽会の様子が描かれている。大勢の聴衆が窓ぎわや家の前に集まり、演奏は円陣を組んだ学生たちが松明をかざす中で行なわれた。楽譜を手にした4人の歌手たちが、中央で4段鍵盤を演奏する指揮者の前に立ち、両端に弦楽器奏者、左手中央にはトランペットを中心とする管楽器奏者、左奥にはティンパニ奏者、中央手前にはファゴット奏者、右手前には低弦奏者など合計38名の演奏者が見

られる。ここで演奏されたのは、編成から考えると教授の就任といった祝典用のカンタータであり、無料であったことも推察できるが、イエーナのコレギウム・ムジクムは1743年からは有料のコンサートを開いている。

寺本まり子 (本学音楽学教授)



ハンブルク、装飾工芸美術館蔵

ウィンドアンサンブル&管弦楽団 定期演奏会／国内・海外演奏旅行

武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブルが、東京芸術劇場 大ホール(7月15日)での定期演奏会に加え、福島、新潟各県(5、7日)で公演を行いました。



▲ウィンドアンサンブル定期演奏会

長年にわたり本学のウィンドアンサンブルを指導してきたレイ・E.クレーマー名誉教授の指揮により、P.ウィルビー“パガニーニ・ヴァリエーション”では高度なアンサンブルを披露し、J.トゥリン“トランペットとトロンボーンのための「ファンダンゴ」”では、本学の橋本 洋(Tp.)、桑田 晃(Tb.)両講師が競演。このバンドの魅力を存分に引き出した選曲で、緻密で表情豊かなサウンドを会場いっぱいに響かせ、聴衆は深い感動に包まれました。

一方、本学管弦楽団は秋気漂う9月、「日本・ハンガリー国交回復50周年」と「本学園創立80周年」を記念して、入間キャンパス パッサザール(8日)、東京オペラシティ コンサートホール(9日)、石川、富山の両県(12、13日)で演奏会を開催。



▲管弦楽団演奏会

特に9日のコンサートには、ボハールハンガリー駐日特命全権大使、また本国からこれら交換事業のために駆けつけた教育文科省のシュネイデル・マルータ次官らが出席。会場に華を添えてくださいました。

指揮者は本学客員教授のカルマン・ベルケシュ氏で、リスト：交響詩《レ・プレリュード》で幕を開け、リスト音楽院学生(ソプラノ：クララ・ヴィンチュ、テノール：ダニエル・パタキ=ポチヨク)の二重唱によるコダーイ：歌劇《ハリー・ヤーノシュ》、《セーケイ地方の紡ぎ部屋》と続き、リスト：ピアノ協奏曲第2番では、本学ヴィルトゥオーソ学科に在籍する竹中千絵(大学4年)、荒井茉莉奈(大学3年)の両名がソリストとして、若々しい真摯な演奏を披露。さらに、チャイコフスキー：交響曲第6番「悲愴」を重厚な響きで奏で、聴衆から温かい拍手が送られました。

また、管弦楽団一行は、これらの国内公演後にハンガリーへの演奏旅行へ出発、9月23日から27日にかけて、ブダペストの名門リスト音楽院大ホールをはじめ、ペーチ、デブレツェン、ジュール、タタバーニャの各都市で5公演を行いました。参加メンバーそれぞれが実りある収穫を手にした、貴重な経験となりました。

この詳報は次号でお知らせします。

●表紙の顔

福井直昭さん



1970年東京生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業後、E.トゥシャ教授に師事し武蔵野音楽大学大学院修士課程を修了しクロイツァー賞を受賞。紀尾井ホールでのデビューリサイタルは音楽誌上で邦人年間ベストリサイタルに選出され、以来日本を代表するリスト弾きとしての地位を得る。ミュンヘン国立音楽大学で更に研鑽を積み、'99年ブルガリア国際コンクール全部門グランプリを審査員全員一致で受賞する。

昨夏、東京オペラシティコンサートホールで開かれた、リストの第一人者であるケマル・ゲキチとのリサイタルは「まさに2つの才能のぶつかり合いであり、現世と冥界との間(あわい)を見据え、根源的なエネルギーを伝播させた(音楽の友)」「日本人離れした重厚で堂々とした響きの揺るぎのない自信に満ち溢れたリスト。日本人としては稀有なヴィルトゥオーゾ(ムジカノーヴァ)」他、各誌上で絶賛を博した。

協奏曲のソリストとしては、'96年「ブダペストの春」国際音楽祭に招聘されヨーロッパデビューを飾り、その後も'97年ハンガリー・ヴィルトゥオーゾ室内管東京公演、'98年ブルガリア国立放送創立50周年記念公演(世界42ヵ国衛星生放送)、'00年国立ソフィア・フィル管定期公演、'04年ピアノ新人会第100回記念公演(東京交響楽団)等、これまで内外で協演したオーケストラは数多く、'09年も9月に東京で巨匠フィリップ・アントルモン指揮・ニュルンベルク交響楽団と協演したばかりである。また室内楽の分野においても、K.ベルケシュ、天満敦子ら著名な演奏家達と協演し活発な活動を行っているが、特にZ.ティバイ(cb)とのCDはグラモフォン誌等で絶賛を博している。

現在、武蔵野音楽大学図書館・楽器博物館館長、教授。



▲ I.イーティン



▲ M.ラリュエ

今年で15回目を迎えた“武蔵野音楽大学国際ナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ”。去る7月19日から29日まで、本学江古田キャンパスにおいて開催されました。

今回招聘された講師陣は、K.ゲキチ、I.イーティン、J.ヤンドー、A.ナセトキン、A.セメツキー（以上ピアノ）、K.

第15回国際ナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ終了

ガネフ（ピアノ・デュオ）、R.ダヴィドヴィッチ（ヴァイオリン）、M.ファウスト、M.ラリュエ（フルート）、堀内康雄、松本美和子（声楽）ら11名。世界の第一線で活躍する教授たちのクラスを受講しようと、全国各地から熱意溢れる学生や音楽家が多数集いました。経験豊かな教授たちからは、音楽的解釈、演奏技術など、連日の熱のこもったレッスンを通して、音楽をする真摯な心が伝えられました。

期間中、堀内康雄教授のバリトンリサイタル（賛助出演、ソプラノ：佐藤美枝子、ピアノ：三ッ石潤司）、ダヴィドヴィッチ、ゲキチ両教授によるデュオ・リサイタルが、練馬文化センター小ホールで、またラリュエ教授によるフルート講座が、本学モーツァルトホールで開催されて、参聴者は熱心に耳を傾け、多くの感動と示唆を手に入れました。

その他、受講生と教授陣との懇談会では、音楽という共通語で交流を深め、また最終日の“受講生によるコン

サート”では、受講生が10日間の研鑽の成果を披露し、友人や教授らといつまでもなごりを惜しんでいました。

受講生からは、短期間ながら内容、運営ともに充実し、今後の研鑽に役立つ有意義なサマースクールであったとの声が多く聞かれ、本年度のサマースクールも盛会、成功裏に終了しました。



▲ R.ダヴィドヴィッチ、K.ゲキチリサイタル



▲ 堀内康雄リサイタル

武蔵野音楽大学室内管弦楽団演奏会

武蔵野音楽大学室内管弦楽団の第2回公演が、去る7月10日、日本大学カザルスホールで行われました。このオーケストラは、本学の学生と若手卒業生を中心に結成され、元ミュンヘン・フィルハーモニーのコンサートマスター、クルト・グントナー本学客員教授を指導者に迎え研鑽を積んできました。

今回は、モーツァルトの初期作品、カサシオン K.63の爽やかな響きから始まり、本学学生2名（ヴァイオリン：溝邊奈菜〔大学2年〕、ピアノ：梅田竜士〔大学院修士課程1年〕）を独奏に迎え、メ

ンデルスゾーンの難曲、ヴァイオリンとピアノのための協奏曲ニ短調を、高度なテクニックと息の合ったアンサンブルで聴かせました。後半はスーク作曲の弦楽合奏のためのセレナード 変ホ長調。躍動感溢れる清新な演奏に対して、会場から万雷の拍手が沸き起こりました。



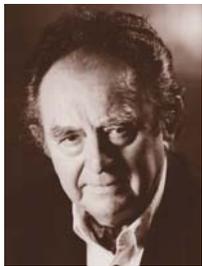
着任外国人教授紹介 (平成21年度後期)

エレナ・オブラストワ
Elena Obraztsova (声楽/ロシア)



レニングラード音楽院に学ぶ。チャイコフスキー国際コンクール優勝ほか受賞多数。世界各地の歌劇場で絶賛を浴び、オペラ歌手として不動の地位を獲得、現在も国際的に活躍中。ロシア共和国国家芸術家の称号及びレニン勲章を授与される。現在、オブラストワ国際声楽コンクール総裁、ムソルグスキー記念サンクトペテルブルク国立ミハイロフスキー歌劇場顧問。

ヨゼフ・ツィルヒ
Josef Zilch (指揮/ドイツ)



国立ミュンヘン音楽大学卒業後、同大学のオーケストラ主任教授を長年にわたり務めた。数多くの著名なオーケストラと共演しており、特にニュルンベルク・シンフォニカーの客演指揮者として20年以上にわたり活躍した他、室内楽、作曲の分野でも幅広い活動を通じ、その功績によりバイエルン州より文化賞、功労十字勲章などを授与されている。1976年以来、本学の招聘により度々来日し、本学管弦楽団・合唱団定期演奏会、ヨーロッパ研修演奏旅行、台湾研修演奏旅行やオペラ公演を指導、指揮し、成功に導いた。本学名誉教授。

ジェームズ・ランブレクト
James Lambrecht (ウインドアンサンブル指揮/アメリカ)



ウィスコンシン大学ホワイトウォーター校を卒業後、インディアナ大学にてレイ・E. クレーマーのもとで研鑽を積み、修士・博士の学位を取得。オリヴェット大学准教授を経て、オーガスタナ大学バンドディレクター及びトランペットの教授に就任。以後20年以上にわたって同大学シンフォニックバンドの指揮、吹奏楽指揮法、金管奏法の指導にあたる他、ゲストコンダクター、クリニシャン、独奏者として幅広く活躍している。今回、初来日。

栄冠おめでとう! (コンクール入賞者等)

(前号までの未掲載分、順不同、敬称略、経歴は受賞時のもの)

- 齊田 好男(昭和45年大学卒音楽教育学科トロンボーン専攻) 平成21年度 兵庫県文化功労賞受賞
- 中島 朱理(平成20年大学卒ピアノ専攻) 第23回 大国際ピアノコンクール(フランス) エクセレンスB部門 第1位入賞 第6回 シャトゥー・ピアノコンクール(フランス) エクセレンス部門 第2位入賞、同入賞者コンサート出演
- 杉本 成美(平成16年大学卒ピアノ専攻 本大学院修士課程修了) 平成21年オーストリア国立ザルツブルク・モーツァルトウム音楽大学大学院を満場一致の最優秀にて卒業 第11回 ユーテルピ国際音楽コンクール(イタリア) ピアノ部門 カテゴリーG 第1位入賞 第3回 プレミオ・ユーテルピ国際ピアノコンクール(イタリア)

- 第3位入賞 第7回 バドヴァ国際音楽コンクール(イタリア) ピアノ部門 カテゴリーE 第4位入賞
- 柄本 舞衣子(平成19年大学卒ハープ専攻 本高等学校卒 本大学院修士課程修了) 第6回 “アルピスタ・ルドヴィゴ”スペイン国際ハープコンクール(スペイン) 第4位入賞
- 三浦 麻葉(本大学院修士課程2年次在学ハープ専攻) 第6回 “アルピスタ・ルドヴィゴ”スペイン国際ハープコンクール(スペイン)マリサ・ロブレス特別賞受賞
- 白石 法久(平成18年大学卒フルート専攻) 第14回 びわ湖国際フルートコンクール 一般部門 第1位入賞、オーディエンス賞受賞

- 尾形 大介(平成12年大学卒ピアノ専攻 本大学院修士課程修了)第60回 山口県芸術文化振興奨励賞(音楽・器楽部門)受賞、財団法人 伊藤国際教育交流奨学生としてハンガリー国立リスト音楽院修士課程に留学 ●河野 春美(昭和62年大学卒ピアノ専攻 本大学院修士課程修了)第39回 『日本童謡賞』特別賞受賞 ●吉野 真紀子(昭和58年大学卒声楽専攻)第10回 日本アンサンブルコンクール 重唱部門 重唱賞(第1位)受賞 ●三戸 大久(平成12年大学卒声楽専攻)第45回 日伊声楽コンクール 本選 入選 ●梅田 千鶴(平成20年大学卒ピアノ専攻 本大学院修士課程1年次在学)第12回 “長江杯”国際音楽コンクール ピアノ部門 大学の部 第6位入賞 ●臼井 俊佑(平成20年大学卒ピアノ専攻 本高等学校卒 本大学院修士課程1年次在学)第18回 やちよ音楽コンクール ピアノ部門 奨励賞受賞 ●瀬戸 章子(平成7年大学卒ピアノ専攻 本高等学校卒 本特修科修了)第3回 東京サミット音楽コンクール 審査員賞受賞 ●久保田 恵理(大学4年次在学ピアノ専攻)第6回 ブルクハルト国際音楽コンクール ピアノ部門 審査員特別賞受賞 ●鈴木 瑛子(大学2年次在学ピアノ専攻)／●浪川 舞(大学2年次在学ピアノ専攻)第33回 ビティナ・ピアノコンペティション デュオ部門連弾上級 東日本デュオII 地区本選 入選 ●服部 文子(大学3年次在学ユーフォニウム専攻)平成21年度 さいたま市音楽家協会会員オーディション 合格 ●山本 己太郎(附属江古田音楽教室在室 埼玉県立草加南高校1年生)第6回 草加市演奏家協会クラシック音楽ジュニアコンクール E部門(高校生) 奨励賞受賞 ●平澤 彩夏(附属江古田音楽教室在室 淑徳小学校4年生)第11回 “万里の長城杯”国際音楽コンクール ピアノ部門 小学校Bの部 第4位入賞(2位なし)、第17回 ヤングアーチストピアノコンクール ピアノ独奏部門 Bグループ 銀賞受賞 ●鎌田 大翔(武蔵野音楽大学第一幼稚園在園)第17回 ヤングアーチストピアノコンクール ピアノ独奏部門 プレAグループ 優秀賞受賞 ●川筋 喜允(附属江古田音楽教室在室 石神井幼稚園在園)第17回 ヤングアーチストピアノコンクール ピアノ独奏部門 プレAグループ 優秀賞受賞 ●森川 なつみ(附属人間音楽教室在室 武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園在園)第17回 ヤングアーチストピアノコンクール ピアノ独奏部門 プレAグループ 優良賞受賞

平成22年度 入学試験要項 請求について

武蔵野音楽大学の各入学試験要項は、本学江古田キャンパスで取り扱っています。要項は無料ですが、郵送をご希望の場合は、氏名、住所、電話番号、および附属高校、大学1年次、大学3年次編・転入、大学院の別を明記し、切手(高校240円、大学1年次390円、大学3年次240円、大学院390円)を同封の上、下記までお申し込みください。なお、冬期受験講習会受講の方には、講習期間中に配付します。

●お問い合わせ・請求先 武蔵野音楽学園広報企画室 〒176-8521 東京都練馬区羽沢1-13-1 電話 03-3992-1125
学園のホームページ、携帯サイトからも請求ができます。http://www.musashino-music.ac.jp/
携帯サイト http://musaon.jp/



武蔵野音楽学園創立80周年記念 ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、本年迎えた創立80周年を記念して、福井直秋記念奨学金基金、演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々からご寄附をいただきました。ここにご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。

学校法人 武蔵野音楽学園

※ご芳名(五十音順)は、平成21年5月13日から7月24日までの間にご寄附いただいた方々です。それ以降の方々は、次号に掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきました。何卒ご了承ください。

【同窓生】

阿久津多嘉子様 朝倉喜裕様 天野頼子様 網野めぐみ様 安東直子様 五十嵐緑様 池田裕子様 伊佐山明郎様 石居庸介様 石黒高子様 石渡保子様 Isumi Morrison様 伊藤郁子様 岩井ゆう子様 岩瀬泰子様 植田礼子様 内田有洸様 梅田寿子様 瓜生眞由美様 及川睦子様 太田春子様 岡本啓子様 小川誠一様 奥田淑江様 鬼鞍和子様 貝嶋夕美子様 片岡ひろみ様 鐘ヶ江敬様 亀崎光子様 川上豊治様 川上美保子様 川越英清様 川嶋章子様 川澄朋子様 熊崎千紘様 黒田百代様 黒森陽子様 古茶泰子様 小林敏子様 酒井香代子様 坂本慶子様 桜井侑子様 佐藤陽子様 佐野直子様 首藤迪子様 Shoko F.Irwin様 十川久子様 高島宏子様 高嶋三保子様 高薄千栄子様 高薄弥栄子様 高橋碧子様 田久保友希様 竹内順子様 田中久美子様 田中末武様 田村るみ様 千々岩保任様 津田蓉子様 鶴野和子様 徳田ゆき様 戸村優貴子様 内藤明枝様 直井美幸様 中美知子様 中島政裕様 永見千恵子様 中山理子様 西井敏江様 西川澄江様 野川直美様 野口潤子様 長谷川光子様 畑民栄様 廣田幸夫様 福井紀子様 藤木めぐみ様 藤本寮子様 前田保様 松上美樹様 松崎セイ子様 松田文子様 水井恵美子様 三井純子様 宮城崇美子様 三吉ミツエ様 向井邦生様 村上信子様 元井美和様 森谷緋紗子様 両角祐三様 安塚郁子様 安原淳子様 山田知子様 山館昌代様 山本照子様 山本和喜子様 横山 Tancke 智英子様 吉澤康雄様 吉田厚子様 李富美様 鷺山貴子様 渡邊伶子様 昭和50年入学同期会一同様 同窓会愛媛県支部新居浜市有志一同様 同窓会埼玉県支部様 むさしの30A会様

【在学生・在校生ご父母】

今泉正様 氏本聡様 遠藤健夫様 久保丈夫様 小嶋徹雄様 高橋泰幸様 龍山永明様 田中寿様 寺田浩一様 二井田守様 西山龍藏様 花岡厚様 早川浩様 藤木世志人様 溝邊直子様 矢木康清様 山口聖一様 山崎嘉忠様

【役員・教職員・一般・他】

相澤美幸様 相原安夫様 安孫子中和子様 安孫子理良様 雨甲斐英夫様 新井和子様 磯村叙子様 伊藤かおる様 井上茜様 井上久美子様 内野博子様 梅田秀一様 及川慥様 大高信様 大滝雄志様 小栗泰一郎様 鬼村玲子様 小野寿美子様 小野茉莉子様 小畑朱実様 鹿島田章子様 亀井陽二様 川崎隆様 菅野孝次様 菊池初美様 菊池英美様 草道節男様 栗原千種様 黒川和子様 黒米恒夫様 黒田増子様 古池好様 小泉敏子様 河野敦子様 古賀和子様 小見山牧子様 佐伯隆夫様 酒井起世子様 櫻井理絵様 佐々木江美様 佐藤愛様 佐藤しのぶ様 真田朗子様 佐野悦郎様 澤田勝行様 澤田紀子様 柴田幹夫様 島津操様 須賀知子様 鈴木郁夫様 砂田孝香様 関根弘美様 左右田典子様 田内千代様 多賀三朗様 高田千絵様 田口宗明様 竹内千賀様 田中路恵様 谷口雄資様 俵豊様 千葉家門様 築田きり子様 綱川恵様 富樫英夫様 徳田圭子様 戸田史郎様 戸部豊様 ドル恵理子様 内藤忠勝様 長尾立矢様 長岡英様 中川俊宏様 永田順子様 中村由加利様 成瀬忠平様 二瓶武廣様 野村邦武様 長谷川寛様 羽田野英子様 馬場那岐子様 林孝治様 林ナナ子様 樋口純明様 久富綏子様 深野千佳子様 福岡敏彦様 別府愛様 本多万里子様 正木光江様 松本文様 丸山徹薫様 光信捷彦様 村上諭様 望月一史様 八木原宗夫様 矢嶋佳子様 保田正英様 山口道子様 山崎博和様 山路聡子様 山田彰一様 山中光様 山本治彦様 由田真実様 吉成行藏様 若木暁子様 若林英鋭様 和田礼子様 渡辺亜紀様 渡辺定夫様 武蔵野音楽協会様 (他に匿名を希望される方81名)

教員免許状更新講習終了

武蔵野音楽大学で去る8月1日から5日間にわたり開講した平成21年度教員免許状更新講習には172名の申込者があり、全日程を滞りなく終了し、初回の講習にもかかわらず、受講生による事後アンケートでも高い評価を受けることができました。

アンケートの項目 (Ⅰ.講習の内容・方法についての総合的な評価、Ⅱ.最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価、Ⅲ.本講習の運営面についての評価)のいずれにおいても、「よい」と「だいたいよい」を合わせた割合が90パーセントを超えており、学内外の講師の方々をはじめ、本学教職員・関係者一同の努力が評価される結果となりました。

R.ラリー・トッド教授講演会

本学園創立80周年記念特別公開講座として、アメリカ・デューク大学のR.ラリー・トッド教授による講演会が、「メンデルスゾーンの(無言歌)と音楽表現の境界」および「2つの協奏曲の成立」をテーマに、来る10月19日、22日の2日間、ともに18時30分から本学江古田キャンパス モーツァルトホールで開催されます。

トッド教授は、音楽学を専攻し、イェール大学で学士、修士、博士を修める一方、優れた鍵盤楽器奏者でもあり、また「ニューグローブ世界音楽大事典」の「メンデルスゾーン」の執筆や交響曲・協奏曲の楽譜校訂を行うなど、メンデルスゾーン研究の世界的権威です。本年のメンデルスゾーン生誕200年記念にふさわしい講演会として、期待されています。詳細は、P.14をご覧ください。

平成21年度10月～12月公開講座・演奏会のお知らせ

第13回武蔵野音楽大学附属高等学校音楽科 在校生と新卒業生によるコンサート

お問い合わせ:武蔵野音楽大学附属高等学校 TEL.04-2932-3063	10月1日 18:30	王子ホール	¥2,000〈全席自由〉
ディナー・アリエーヴァ ソプラノ・リサイタル	10月5日 18:30	ベートーヴェンホール(江古田)	¥1,000〈全席自由〉
共演=メゾ・ソプラノ:エレナ・オブラストワフ テノール:郡司忠良 バリトン:豊島雄一 ピアノ:三ツ石潤司			
曲目=ビゼー:歌劇《カルメン》より「ハバネラ」、ヴェルディ:歌劇《ラ・トラヴィアータ》より「ああ、そはかの人か〜花から花へ」、二重唱「パリを離れて」 他			

武蔵野音楽学園創立80周年記念特別公開講座

R.ラリー・トッド教授講演会 メンデルスゾーン生誕200年によせて (通訳=星野宏美:立教大学教授)	10月19日 18:30	モーツァルトホール(江古田)	入場無料
メンデルスゾーンの《無言歌》と音楽表現の境界			〈全席自由・要入場整理券〉
演奏=ソプラノ:山口道子 メゾ・ソプラノ:河野めぐみ			
2つの協奏曲の成立:メンデルスゾーンのピアノ協奏曲 ホ短調	10月22日 18:30	モーツァルトホール(江古田)	入場無料
			〈全席自由・要入場整理券〉

ニュー・ストリーム・コンサートXI ~ヴィルトゥオオーソ学科演奏会3~	11月11日 18:30	トッパンホール	¥2,000〈全席自由〉
人間市市民コンサート 武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会	11月14日 15:00	人間市市民会館	入場無料〈要整理券〉
指揮=北原幸男		(主催:人間市立中央公民館)	
ヴァイオリン独奏=小林麻里(大学4年) コントラバス独奏=寺澤歌(大学4年)			
曲目=ポロディン:歌劇《イーゴリ公》より「だったん人の踊り」、モーツァルト:ヴァイオリン協奏曲 第3番 ト長調 K.216、ヴァンハル:コントラバス協奏曲 二長調 他			
お問い合わせ:人間市立中央公民館 TEL.04-2964-2413			

シエナ・ウインド・オーケストラ 第31回定期演奏会(本学女声合唱出演)	11月17日 19:00	横浜みなとみらいホール 大ホール	
指揮=十束尚宏 吹奏楽=シエナ・ウインド・オーケストラ 曲目=ホルスト:組曲《惑星》(全曲) 他			S席 ¥5,500/A席 ¥4,500
合唱指揮=前田淳 お問い合わせ:ジャパン・シンフォニック・ウインズ TEL.03-3357-4870			B席 ¥3,500/C席 ¥2,500

日本・ドナウ交流年2009/日本・ハンガリー国交回復50周年記念 武蔵野音楽学園創立80周年記念	11月18日 19:00	東京芸術劇場 大ホール	A席 ¥2,000/ B席 ¥1,500〈全席指定〉
リスト音楽院管弦楽団演奏会			
指揮=カールマン・ベルケシュ ピアノ独奏=福井直昭			
曲目=コダーイ:ガラタ舞曲、リスト:ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調、ベートーヴェン:交響曲 第7番 イ長調 他			

特別講演会	11月19日 18:30	モーツァルトホール(江古田)	入場無料
コダーイとハンガリーの音楽教育(仮題)			〈全席自由・要入場整理券〉
シャロータ・コダーイ女史(ゾルターン・コダーイ夫人)/アンドラーシュ・バッタ教授(リスト音楽院院長)			

新日本フィルハーモニー交響楽団 第455回定期演奏会(本学室内合唱団出演)	11月18日 19:15	サントリーホール 大ホール	S席 ¥12,000/ A席 ¥10,000/B席 ¥8,500
指揮=クリスティアン・アルミンク 曲目=マーラー:交響曲 第8番 変ホ長調「千人の交響曲」			C席完売/P席販売なし
合唱指揮=栗山文昭 お問い合わせ:新日本フィル・チケットボックス TEL.03-5610-3815			

武蔵野音楽大学シンフォニック ウィンド オーケストラ演奏会	11月27日 18:30	パッサザール(入間)	一般 ¥1,500/ 小中高 ¥1,000
指揮=前田淳			〈全席自由〉
曲目=シュワントナー:…そしてどこにも山の姿はない、リード:オセロ、川辺真:民話への誘い 他			

第1回音楽大学オーケストラ・フェスティバル	11月28日 15:00	ミュザ川崎 シンフォニーホール	1回券 ¥1,000
武蔵野音楽大学管弦楽団合唱団演奏会			〈全席指定〉
指揮=ヨゼフ・ツィルヒ (主催:音楽大学オーケストラ・フェスティバル実行委員会、東京芸術劇場、ミュザ川崎シンフォニーホール)			
合唱指揮=栗山文昭 曲目=ハイドン:オラトリオ《天地創造》Hob.XXI:2より			

武蔵野音楽大学管弦楽団合唱団演奏会	12月 5日 18:30	パッサザール(入間)	¥2,000〈指定席〉
指揮=ヨゼフ・ツィルヒ 合唱指揮=栗山文昭	12月 7日 19:00	サントリーホール 大ホール	¥2,000〈全席指定〉
独唱=佐藤美枝子(ガブリエル、エヴァ)他 曲目=ハイドン:オラトリオ《天地創造》Hob.XXI:2			

武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会	12月17日 18:30	東京オペラシティ コンサートホール	A席 ¥2,000/ B席 ¥1,500〈全席指定〉
指揮=ジェームズ・ランブレクト 曲目=マスランカ:交響曲 第4番 他			

お問い合わせ ●武蔵野音楽大学江古田キャンパス演奏部 TEL.03-3992-1120 ●武蔵野音楽大学入間キャンパス演奏部 TEL.04-2932-3108

※講師の病気、その他やむを得ない事情により、出演者・曲目等を変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※チケットは武蔵野音楽大学ホームページ <http://www.musashino-music.ac.jp/> でも予約ができます。

武蔵野音楽大学・附属高等学校 平成21年度冬期講習会のお知らせ

音楽大学受験講習会:平成21年12月23日 ~26日 高校音楽科受験講習会:平成21年12月24日 ~26日
 申込期間:大学・高校 平成21年11月12日 ~12月9日 会場:武蔵野音楽大学江古田キャンパス
 要項請求:直接広報企画室へ、またはホームページ、携帯サイトにてお申し込みください。講習会要項は無料、郵送料は学園が負担します。
 お問い合わせ・お申し込み 武蔵野音楽学園広報企画室 TEL.03-3992-1125
 ホームページアドレス <http://www.musashino-music.ac.jp/> 携帯サイト <http://musaon.jp/>

●本学園の平成20年度事業報告・決算等の概要が、平成21年8月3日付の官報に掲載されています

編集後記

創立80周年記念座談会における、人間教育が武蔵野の基本中の基本だという発言。山下泰裕さんは同じく、人間教育こそが柔道の根本だとおっしゃいます。知識や技術の習得だけでなく、人としての成長が伴うことが大切だというのはどの分野でも同じこと。武蔵野の脈々と続く歴史を担う我々も、いま一度肝に銘じたいものです(編)。

ポケットグランドピアノ

R.ウォルナム作 1830年頃 ロンドン 奥行き156cm

ポケットグランドピアノ(写真1)は、ロンドンのウォルナムが19世紀前半に考案した、特殊な構造を持つピアノである。この楽器は、グランドピアノの上部にアップライトピアノの背面を結合したような形になっている。ウォルナムは、グランドピアノが構造的に持つ問題を解決するためにこの楽器を製作した。

グランドピアノの内部は、下からハンマー、響板、弦の順に配置されており、ハンマーは、響板上に張られた弦を打ち上げて発音する。したがって、この打弦により、弦には常に響板から浮き上がる方向に力が加わる。当時の木製フレームのピアノでは、この圧力により、弦と響板とをつなぐ駒などの部位の接着が不安定になるといった

問題があった。一方、アップライトピアノは、ハンマー、弦、響板の順に配置されているため、弦は響板に向かって打弦されることから、このような問題が発生しない。そこでウォルナムは、グランドピアノのハンマーアクションの上部に、アップライトピアノのフレーム部分をかぶせた形で配置した。(写真2)はアクション調整のために楽器を開いた状態で、弦が響板の下に張られているのが見える。この状態ではハンマーが空振りするために音は出ないが、調律の際には楽器を閉じた状態で前面の蓋を取ると調律ピンが現れる(写真3)。

ウォルナムはアップライトピアノに関する多くの特許を取得したことで知られる。ポケットグランドピアノは、ピアノの改良に精励したウォルナムが生み出した、創意工夫に富む楽器といえるだろう。

(武蔵野音楽大学楽器博物館所蔵)



※ 目 次 ※

- 夢の途中 ①
山下泰裕
- 音楽余話 ④
好対照：その2「どちらが正しいか」 コンスタンティン・ガネフ
- 特集 創立80周年記念 ⑤
変革しつづける武蔵野音楽学園の80年を語る (第2部)
- 音楽の万華鏡 ⑨
イエーナのコレギウム・ムジクム 寺本まり子
- MUSASHINO NEWS ⑩
 - ※ ウィンドアンサンブル&管弦楽団 定期演奏会/国内・海外演奏旅行
 - ※ 第15回インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ終了
 - ※ 武蔵野音楽大学室内管弦楽団演奏会
 - ※ 着任外国人教授紹介
 - ※ 栄冠おめでとう! (コンクール入賞者等)
 - ※ 平成22年度入学試験要項請求について
 - ※ 武蔵野音楽学園創立80周年記念 ご寄附をいただいた方々
 - ※ 教員免許状更新講習終了
 - ※ R.ラリー・トッド教授講演会
 - ※ 平成21年度10月~12月公開講座・演奏会のお知らせ
 - ※ 平成21年度冬期講習会のお知らせ

武蔵野音楽大学大学院

博士前期課程・博士後期課程

武蔵野音楽大学

武蔵野音楽大学附属高等学校

武蔵野音楽大学第一幼稚園

武蔵野音楽大学第二幼稚園

武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園

附属音楽教室 江古田・入間・多摩

※ 発行 ※



創立八十周年

学校法人 武蔵野音楽学園

- 江古田キャンパス ●〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1
TEL.03-3992-1121 (代表)
- 入間キャンパス ●〒358-8521 埼玉県入間市中神728
TEL.04-2932-2111 (代表)
- パルナソス多摩 ●〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1
TEL.042-389-0711 (代表)

<http://www.musashino-music.ac.jp/>

2009年10月1日発行 通巻第91号



携帯サイト
<http://musaon.jp/>